

対談市町名	対談項目		各市町長の主な発言内容	知事の発言内容
1 多気町	対談項目1 企業誘致の強化支援について		<p>多気町には平成7年にシャープが立地して以来、大きな企業の立地には至っていない。このクリスタル工業団地は、来年の秋の完成を目指し、町が開発を進めている。工業団地の開発は地域の活性化、地域振興を目的とするのは一般の事業者も同じであるが、自治体が行う場合は、営利を目的としない点で事業者の開発とは異なっている。県に支援をお願いしたいのは、開発行為の申請を行う際、変更のたびに手数料がかかる。手数料の取扱いについては柔軟な対応をお願いしたい。また、開発部門は農地、建設、林地などに渡るが林地開発の申請はホームページを使った電子化がなされていない。書類申請の手間が省けるので電子化を早急をお願いしたい。開発行為の事務には結構な手間がかかるので十分な配慮をお願いしたい。</p> <p>この地域に企業を誘致できれば、県南部の若者の雇用の場の確保にもつながる。県の立地担当課にもいろんな企業の紹介をいただいているが、なかなか立地につながっていないので、よろしく願います。</p>	<p>県では、今年から県内への投資を促進する制度を新たに創設した。「マイレージ制度」については、これまでは一度に一定の金額まで投資しないと補助の対象にならなかったが、複数年に分けて投資しても合計で一定の金額に達したら補助の対象とする制度で、近年、小規模な投資が増えてきていることから、より投資を促進するため始めたものである。また、「マザー工場化」につながる投資支援として、工場の人材の指導や最初の施策や開発などに対する支援を制度化した。これらの結果、立地協定を結んだ企業は今年上半期で前年の4倍になった。この工業団地は企業の要望する面積や形に柔軟に対応できるため、企業に対し紹介しやすい。今後、懇談会やセミナーを開催するなど、町とともに誘致に向けて取り組んでいきたい。</p> <p>手数料の件、林地開発の電子化、事務の簡素化については、実務上どういところがネックになっているのか担当とも話をして、前向きに進められる部分は進めていきたい。</p>

対談 市町名	対談項目		各市町長の主な発言内容	知事の発言内容
2 多気町	対談項目2 子育て 施策支援について	低年齢児保育推進事 業費補助金について	今年度から次世代育成支援特別保育推進事業補助金（低年齢児保育推進事業）がなくなったので、復活をお願いしたい。	待機児童は年度途中に増えていく傾向があることから、保育士を増員するための人件費補助を待機児童の多い市町に重点的に配分できるよう事業をリニューアルした。この結果、待機児童を減らした市町ほど補助金をもらえなくなるという矛盾が生じてしまうとの意見もいただいている。現在、国が子育てに関する補助制度の見直しを検討しており、県としてもそうした動きを見ながらどのように対応していくか考えたい。一方で、年度当初の保育所職員の加配を可能とする仕組みを導入するよう国に要望している。また、県では少子化対策を来年度の重点化施策と位置付けており、しっかり取り組んでまいりたい。
3 多気町	対談項目2 子育て 施策支援について	放課後児童クラブに ついて	放課後児童クラブについては町内に5か所小学校があるが10人未満のクラブが4か所あったため、昨年オープンした児童館に集約させ、約60人の利用をいただいている。	放課後児童クラブの補助制度については、国は10人以上のクラブを対象としているため、県では5人から9人の小規模なクラブに対して補助を行っている。そのため、10人未満のクラブに対しても補助されるよう国に要望している。

対談市町名	対談項目		各市町長の主な発言内容	知事の発言内容
4 多気町	対談項目2 子育て 施策支援について	あすなる学園での「発達障がい支援システムアドバイザー研修制度」の継続について	あすなる学園に支援をいただいている「発達障がい支援システムアドバイザー研修制度」の継続をお願いする。	町にも協力いただいている発達障がいシステムアドバイザーの研修制度については、来年度以降も引き続き行っていく。
5 多気町	対談項目2 子育て 施策支援について	自然派保育園	町では自然派保育園の創設を考えており、県で何らかの支援をいただければと思う。	鳥取県の「森の幼稚園」や東京の「どろんこ幼稚園」など全国的にも自然派保育園は注目されており、国においても、27年度以降に、私立の特色ある保育園に対する支援が検討されている。県においても必要な役割を果たしていきたいと考えている。

対談市町名	対談項目	各市町長の主な発言内容	知事の発言内容
6 多気町	対談項目3 定住促進対策の推進について	<p>多気町では毎年年間100人程度人口が減少している。自然減が60人、転出が40人である。学校を卒業したら働く場所がないので出ていく若者が多いと思われる。多気町に住みたいと思ってもらえるような制度を創っていききたい。県でも支援いただけることがあれば教えてほしい。</p>	<p>定住促進対策については、県南部地域、中山間地域においてはたいへん重要な課題と考えている。県では地域支援課において市町とともに地域づくりに取り組んでいく体制を整備しているのでご相談いただきたい。また、県と市町の地域づくり連携・協働協議会の地域会議の中で特定の課題に取り組む検討会議があり、そこで定住促進のモデル事業などを協議していただくことができ、三重県地域づくり支援補助金を活用してもらうことも可能である。</p> <p>また、昨年「移住フェア」を東京で開催したところ約100名に来場いただき、好評であった。今年も関西、中部でやる予定であり、多気町のPRも一緒になってさせていただけたらと思う。この9月28日には東京で三重テラスがオープンするので、移住したいと考えている人に対し、積極的にPRを行っていききたい。</p> <p>徳島県神山町はIT技術者や芸術家を集めてまちづくりを行っており、そこに職員が勉強に行ったりしているので、その成果などを共有して一緒にやっていければと思う。</p>